

まちづくり情報第30号（6／17）

20年度地域振興部ビジョン・キーワード「参画・協働」

【参画と協働の復興まちづくり】

平成17年に、震災から10年目を迎えた神戸市で開催された「第3回ユニバーサルデザイン全国大会」に出席してきました。今回は、そのときに見た神戸市六甲道地区の復興まちづくりの様子を紹介します。

六甲道駅北地区では、市が示した区画整理事業の計画を白紙に戻し、地域住民が毎週集まって話し合いを重ね、自分達の計画を作って復興まちづくりを行いました。

- ・ 1019棟中、568棟が震災で全壊、16haの区画整理事業で復興に取り組んだ。
- ・ まちづくりのポイントは「みんなで方式」。いろんな意見があるからこそ話し合いでお互いを認め合ううちに。
- ・ 公園や道路の完成を「みんなでテープカット」でオープニングセレモニー。
- ・ 基本は手づくり。「お客様」ではなく、一緒に身体を動かすことが大事。
- ・ みんなで準備、みんなで遊ぶ、みんなで掃除、みんなでまちの運営。
- ・ 最後に整備を進めている防災公園「六甲風の郷公園」が、園内の「風の家」とともにユニバーサルな復興まちづくりのシンボル。
- ・ 粘り強く何度もワークショップを重ね、みんなの思い、アイデアを凝縮。

10年間に及ぶまちづくりには、「自分たちで21世紀に希望と誇りを持って暮らせる魅力あるまちを次世代に渡す」というビジョン、コンセプトがしっかりと掲げられていました。

六甲道駅北地区のまちづくり1.doc

六甲道駅北地区のまちづくり2.doc

六甲道駅北地区のまちづくり3.doc

六甲道駅北地区のまちづくり4.doc

灘区 六甲道駅周辺 震災復興10年の歩み

六甲道駅北地区復興まちづくり



六甲道（ろっこうみち）駅北地区・安心コミュニティプラザ「風の家」は、震災で大きな被害を受け、「震災復興まちづくり」の活動を続けてきた「六甲道駅北地区まちづくり連合協議会」や住民の活動拠点として、0.8haの防災公園予定地内に、昨年10月にオープン。

同協議会は、震災により壊滅状態のまちの中から、災害に強いまち・安心して住めるまち、そして、21世紀に希望と誇りを持って暮らせる魅力ある六甲のまちを次世代に手渡すことができるよう、大人も子供も誰でも参加できる「勉強会」（幹事会や役員会ではなく、誰でも参加、毎週1回開催。今になってみれば、車座になってのワークショップ）を重ね、助け合い、譲り合って、住民みんなが主体となった復興まちづくりを進めてこられました。

今では、みんな地区内全員の顔がわかるようになったそうです。

その提案を神戸市が区画整理事業の計画に受け入れ、実現したそうです。

「みんなで方式、みんなで考えてできるものは自分たちで作ろう、完成したらみんなで祝おう、みんなで使って、みんなでまちを運営しよう！」が基本で、防災公園も、設計だけで10回のワークショップを行っており、基盤整備を市にやってもらったら、仕上げの植栽等は住民が行うとのことでした。

「風の家」は、「みんなの拠点」として、今後のまちの「運営」を住民自身が行っていく活動の拠点になります。

そんな結果が左の写真にもあり、交差点部分の歩道の段差が0cmです。同行した電動車椅子の方も喜んでいました。岩手とは境界ブロックの形が違います。



10年間にわたる活動の歴史を年表にして貼り出していました。

ワークショップは現在も月1回開催されているそうです。

意見の合意形成は、車座でお互いに表情を見ながら、否定しないで話しを積み重ねよう、まとめようというハートを持って、無理をしないで時間をかけて進められました。



1019棟のうち568棟が全壊したところから復興した街並み。

作って完成ではなく、地元にとってはそこがスタートと仰っていました。



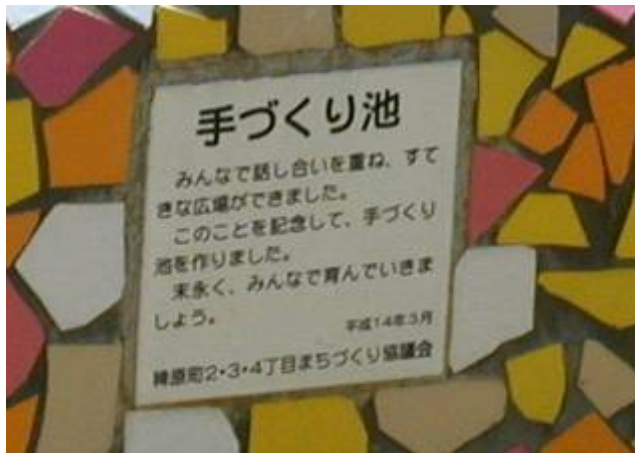
横断歩道から歩道への接続。グレーの境界ブロックの先端部は段差が2cm、緑のブロックの段差は0cm。歩道本体（車道より5cm 高い）には影響せず、凸凹になっていません。

UDを目指したのではなく、「みんなで話し合ったら、結果、UDになった」ということでした。



住民参加（グラウンドワーク）で作った広場です。

オープニングセレモニーは、参加者全員によるテープカットなそうです。道路も同様。供用開始前なので、なんでもできるそうです。



みんなで考え、みんなで作り、みんなで育んでいくことを現場に表示しています。



この広場もちろん参画・協働です。



門柱に、みんなの参加記念のプレートが貼り付けられていました。



広場の完成記念碑です。

「あの刻（とき）を忘れない」
1995.1.17 5:46



「愛し愛されるまち、この場所から
創（はじ）めよう」
自治会が建てた看板です。
住民の意思がよくわかります。